

佳作

悪ノコソウ

茨城県 高萩市立松岡小学校六年 尾花 葉里

私は、四年生の時に学校に行けなくなった。三期の頃でした。原因は今思い返してもはっきりとはわからないが、たしか休み時間に鬼ごっこに毎日誘われていやだった記憶があります。やりたくないという気持ちはあっても、断ることが出来ずにいました。他にもあると思うのですが、それが一番の原因だったんだと思います。日に日に学校に行ったらまた断れずに鬼をやらされてしまう。もし「鬼、やりたくない」などと言ったら一緒にやっている人は嫌な気持ちになってしまうのかなと考えてしまった。ストレスがたまってきて、とうとう学校に行けなくなってしまいました。

学校に行けない日は、担任の先生が心配して電話をかけてくれたりしました。中には保健室に行ける日もあり、行けた時は、クラスの人が手紙を届けて

くれました。中でもうれしかったのは、児童クラブで一緒だった一つ上の学年の友達が休み時間や帰りに会いに来てくれて「大丈夫だよ！」などとはげましの言葉をかけてくれてすごく力をもらえた。

家では大好きな絵を描いたり、お母さんと一緒に美しい料理を作ったり、外に遊びに行ったりして過ごしました。家族には甘えてしまって、キツく当たったりしてしまうこともあったけど、私のペースに合わせてくれて、見守ってくれました。少しずつ、何で学校に行けないんだろうと、落ち着いて考えることができるようになってきて、教室に行ける日も増えてきました。一年経って、普通に登校できるよ

うになりました。六年生になって、最後の運動会や修学旅行にも楽しく参加することができて、本当によかったです。学校に行けない日を経験して、私は人よりも気になってしまう性格を持っていることに気づきました。他の人の気持ちを考えるのは必要だけど、自分が我まんして無理に合わせるばかりでは、上手いかない事がわかりました。お互いの意見を大切に解決方法を見つけていきたいと思いました。

また、私のように自分の意見を中々言えない人もいると思うので、そんな人達の声に耳をかたむけられるカウンセラーになりたいという夢ができました。